

第4回 酒田市総合計画審議会 議事要旨

1. 日時

平成29年10月3日（火）14:00～16:00

2. 場所

酒田市役所 第一・第二委員会室

3. 出席者

【酒田市総合計画審議会委員 計17名（敬称略）】

酒田市自治会連合会連絡協議会会長	阿部 建治
酒田市市街地コミュニティ振興会連絡協議会会長	小柴 勝
酒田市コミュニティ振興会連絡協議会会長	佐藤 善一
松山地区コミュニティ振興会連絡協議会会長	齋藤 吉男
酒田市消費者団体連絡協議会副会長	後藤 キク
酒田商工会議所副会頭	吉川 哲央
酒田ふれあい商工会会長	富樫 秀克
山形県漁業協同組合参事	西村 盛
連合山形酒田飽海地域協議会事務局長	阿部 秀徳
社会福祉法人酒田市社会福祉協議会会長	阿部 直善
酒田市芸術文化協会会長	工藤 幸治
酒田市食生活改善推進協議会会長	佐藤 初子
きらきらネットワーク倶楽部会長	村上 淳子
特定非営利活動法人にこっと理事長	片桐 晃子
特定非営利活動法人元気王国理事長	佐藤 香奈子
東北公益文科大学学長	吉村 昇
東北公益文科大学教授	武田 真理子

【事務局（酒田市）】

市長、総務部長、市政推進調整監兼危機管理監、消防調整監、企画振興部長、市民部長、健康福祉部長、農林水産部長、水産林政調整監、商工観光部長、建設部長、上下水道部長、上水道技監、教育部長、政策推進課長

4. 議事要旨

【市長あいさつ】

- 次期総合計画の策定に向け、委員の皆様からは3つの部会に分かれてご意見を頂戴してきた。
- 計画策定の基本的な考え方は次の5つ。①市民参画による計画づくり、②わかりやす

い計画づくり、③市民と行政の協働、④東北公益文科大学と連携した計画、⑤個別計画の指針となる計画

○今日までに第二次原案という形でまとめてはいるが、内容については今後も協議を重ねて変わってくるころはあると思う。例えば産業交流都市創造会議などでも総合計画を見てもらい、意見をいただきたいと考えている。

○委員の皆様からも引き続きご意見を頂戴したい。

【総合計画審議会会長あいさつ】

○これまでの各部会の意見が反映され、総合計画の原案として固まってきているものと思う。

○忌憚のないご意見をいただきたい。

(1) 今後のスケジュールについて【資料1】

事務局より資料に沿って説明

○意見なし

(2) 総合計画第二次原案について

①各部会からの報告及び事務局より資料に沿って説明【資料2・3】

○ひとづくり・まちづくり部会

(委員) 向こう10年間の酒田市をつくっていく部会に参加できて光栄。未来会議には老若男女多くの方が参加していて若返ったような気持ちになった。これからも皆様と一緒に議論していきたいと思う。

意見等

(委員) 政策シートの「○」で表しているところについて「①」「②」のように数字をふったほうがいいのかと意見を申し上げたのは、部会の際に説明を聞いたとき、どこをしゃべっているのかわかりにくかったため。それについて、施策の優先順位をつける意図はなく、また今日はわかりやすく説明してくれたので好感が持てた。今後もわかりやすく取りはからっていただければ。

(委員) 部会の際も申し上げ、はっきりとした回答を得られなかったが、政策1-3の「標準学力検査」がどういうものかわからない。説明して欲しい。

⇒毎年4月に、前年度どれくらい学力がついたか測るもの。小学4年～中学3年までが対象で個人の学力の伸びがわかる。全国的な統計の中で50点を標準として設定されており、それと比較することで全国の中で高いのか低いのかを見ることができる。基礎的・基本的な学習内容の到達状況を把握し、指導要領にのっとって単元別でどれくらいできているかなど、細かな分析ができる。全国で行われているが、手上げ方式なので実施していないところもある。

(委員) 政策5-4「暮らしの足」について、東京では70歳以上の人は公共バスが無

料。交通網自体も発達しているので、向こうの人に酒田に来ないかと言っても、東京を離れて暮らせないと言う。酒田は免許返納で若干のサービスあるものの、ただでさえ不便なのに、なぜデマンドタクシーの利用が減るのか。高齢者へのサービスなにかできないか。利用が増えて街中に買い物に出てくれれば活性化にもつながる。

考える余地はないか。

⇒地方だと高齢者になっても自家用車を手放せない。いかに公共交通の利用につなげるか。るんるんバス、ぐるっとバス、デマンドタクシーは経路が見直されているが、少しずつ利用が増えてくるという認識。地域公共交通網形成計画に基づき、全体の交通網の見直しを図っており、利用しやすい体系を検討しているのでご注目いただきたい。免許返納された方への補助は今年から拡充しており、バスの場合実質無料になっている。引き続き利用しやすい公共交通を目指していく。

○市民生活部会

(委員) 資料の量のとおり、極めて活発に質疑、課題の指摘、修正意見の提案がなされた。内容的にも委員の専門性と視野の広さが反映されたものとなった。部会の所管分野はもとより、それ以外のところにも意見が出された。市と市民が協働でまちづくりを行う計画でありたいという思いからのものであるのご理解いただきたい。市側からは部会での意見をきちんと受け止めていただき感謝する。

(委員) 切迫した問題の多い分野の担当であった。全体を通してわくわく感があるような、目玉、ブレイクスルーを打ち出せたらいいのではないかという意見や、行政と市民の間に入るコミュニティの必要性に関する意見が何度も出された。

意見等

(委員) 政策5-4「暮らしの足」について、今は公共交通の視点だけで書かれているが、どう考えても公共交通だけではこれからの地域の「暮らしの足」は維持できないと考える。今度山形市で地域住民主体による移送活動に関する会議があるが、そういう視点でも取り組んでいかないと本当の維持はできないと思う。市と市民の協働という部分をここに落とし込むべきである。

⇒公共交通だけでなく、コミュニティ運行という考え方も重要と認識している。検討していきたい。

(委員) これから各コミュニティで文化祭、コミュニティ祭りが開催される。コミュニティの諸行事と芸術文化振興の関係を今後どのように捉えていくかが重要である。現在、市で芸術文化振興計画の策定を行っているが、コミュニティとの関係が課題となってくる。もっとも地域に根ざしているのはコミュニティでの芸術文化活動であると感じている。方向性を出していくべきと考える。

(委員) コミュニティ振興会の会長になって5年だが、年間行事が山ほどある。事務局長置くとお金がかかるため、自分が安い手当てでやっている状態だが、あとに続く会長が同様にやれるかどうか不安。公民館時代は市職員が配置され、市との連携は楽だった。コミュニティの活性化には子どもが大事だが、このままでは活性化は無理。高

齢者のたまり場になっている。子どもを中心としたこれからのコミュニティのあり方を、もう少し明確に方向性として出して欲しい。

○産業交流部会

(委員) 農林水産業において、特に担い手不足の問題に対して、高齢者、外国人、障がい者の活用などの意見が出された。他にも移住、子育て対策、「港」の活用、水産物のブランド化、花き・園芸の推進、農商工の連携など、色々な分野に関する意見が出された。

意見等

(委員) 政策3-1「移住」について、移住定住対策の最期の受け皿をどうするのか。移住者が酒田に骨を埋めるのかはわからないが、ただ迎え入れるだけでなく、最期の最期まで酒田で受け入れる素地があるということをメッセージとして出すことが大事ではないか。

(委員) 各自治体には公営墓地がある。移住してきた以上は最期まできちりそういうものを作ってあげるべきでは。

⇒移住後のフォローについては、ネットワーク作りを応援していくということを記載しており、元気なうちは仲間づくりをしながら酒田で活躍していただくことを考えている。最期まで、という部分については現状記載なく、地域での支え合いといった部分や社会保障の部分になると思うが、責任を持って受け入れるというスタンスをどのように書き込んでいくかは検討させていただきたい。

②第二次原案素案からの変更点について事務局より資料に沿って説明【資料4】

意見等

(委員) 「行財政運営の方針」と「土地利用構想」は市民目線で考えたとき、もっとも関心があるところだと思う。1～6章の諸課題を解決していくにあたって、酒田市を「面」として考えたとき、行財政運営や土地利用をどのように展開していくのか。市民が一番期待しているのは、こういう時代だからこそ職員から地域に出てきてもらって、継続的な関わりの中で協働して発展していくことではないか。どうやって一緒に取り組んでもらえるのか、示してほしい。協働についての市民へのメッセージとして捉えたとき、そのあたりのポイントをどう示せるかが大事。

⇒重要な視点を指摘いただいた。どのように具現化し、「見える化」するか。10年後の財政状況を見通して画として描いていくのは厳しい部分はあると思っている。わくわく感という話があったが、暮らしのありかたがどのようになっていくかというところについて、表し方を検討したい。またアドバイスがあればうかがいたい。

⇒1～6章の方向性と施策について、実際に酒田市の財政や行政の体制の中でやれるのかどうか、というところは議論をしなければならないと考えている。各政策について、具体的にどのような取り組みで達成するのか、10年間でやりきれぬのか、考えなくてはいけない。最初に、今後計画の中身が変わってくるかもしれないという話をしたが、その部分のことを言ったもの。特に将来の財政運営を考えたとき、本当にやれる

のか。公共交通の話が出たが、酒田で都会と同じようにするのはやはり難しい。民間から協力いただきながらやっていくシステムなど、考えなければいけないことはたくさんある。財政面とすりあわせをして、もう一度考え直さなくてはいけない項目は出てくるだろうと思う。内部でも議論していきたい。

土地利用構想については、前回の総合計画の土地利用構想と変わっていない。それでいいのか。例えば「観光交流エリア」はこんなに必要なのか。ここには施設の整備などがついてくるものなので、本当にできるのか財政運営の方針と調整して慎重に進めていかないといけない。

コミュニティについて、例えばコミュニティの維持のために本当に機能するならば、職員やそれに類した人材を配置するという事は政策としてあってもいいと思うが、そうすると人件費がかかる。再任用の制度や定年延長という動きもあり、ここでもやはり財政が絡んでくるので、どのようにコミュニティの維持を図るか議論が必要。職員がいるとコミュニティとしても甘えてしまう。以前はもっと地域が自主的にコミュニティを維持してきたはず。再び職員を戻す、ということについては更なる議論が必要。芸術文化にしても、コミュニティ単位でやるものと市全体の芸術文化の振興とを一緒に考えていいのかなど、計画の最後のまとめに向けてしっかり議論し、市民の皆さんに見ていただいた上で出していきたいので、もう少し時間をいただきたい。

(委員) 魅力ある表紙は大事。思わず手にとって読みたくなるような冊子に仕上げしてほしい。市民芸術祭60年記念誌では現代アートを採用して評価が高かった。風光明媚な観光写真などではなく、夢のある子どもの絵でもいいのではないかな。観光パンフみたいなものはいらない。

(委員) 政策1-1の中の「市民協働を推進する市の組織体制の充実強化と市民協働に対する職員の意識改革」という部分と、「行財政運営の方針」の中の「行政課題に的確に対応できる能力や知識を身につける研修の実施」という部分はリンクしているのか。⇒「行財政運営の方針」ではこれまでも行ってきた人材育成のベースとなる研修のことを指している。政策1-1での記載についてはファシリテーション研修など、これまでの研修を拡充してやっていくものと考えている。

(委員) よいものが出来つつあると思っているので、夢と希望を持って挑戦してほしい。あとはロマンも必要。若者が2,000人はいる都市を目指してほしいし、その中で大学がどうあるべきか考えたい。インフラについてはかなり整備が進んでいると思うが、空港の充実や駅舎の改修などを促進して欲しい。

(以上)